

# 平成16年度独立行政法人国立環境研究所業務実績の評価書

平成17年8月2日  
環境省独立行政法人評価委員会

## 総合評価：A

### 概 評

国立環境研究所は、幅広い環境研究に学際的かつ総合的に取り組むわが国唯一の国設研究所として、地球温暖化、生物多様性、内分泌攪乱化学物質、廃棄物管理など、「環境」をキーワードとする多様で広範囲の研究対象を持ち、その基礎となる学問分野も物理学、化学、生物学等理学、工学、農学、医学から社会科学までまたがり、あらゆる分野の専門知識を必要とする多様性に満ちた研究所である。

国立環境研究所の研究活動は、多様な専門分野に関する基盤的研究推進を縦軸とし、社会的な必要性の強い問題に応じた分野横断・分野融合型プロジェクト研究推進を横軸とするマトリックス・マネジメントを導入して、効率的かつ機動的な組織及び支援体制を構築しつつ順調な発展を見せている。

また、国立環境研究所は、わが国の環境行政の科学的、技術的基盤の提供機関として、また国際的にも環境分野における中核的な機関として、重要な役割を果たしてきていると言える。

平成16年度は、5年間の中期目標期間の4年目にあたることから、その業務実績の総括及び評価が、国立環境研究所が次期中期計画期間において果たすべき役割を検討するうえで重要な年度と言えよう。中期計画期間開始以来の4年間を通観する評価は別途行うこととしているが、この平成16年度の業務実績の総括と評価自体すでにそのような視点を念頭に置きつつ行われるべきものであろう。

今回提出された業務実績の報告書は、このような観点から見て、適切に作成されている。

また、主要な研究業務に係る外部評価においても、平成17年度中に予定している研究内容や最終的に想定される成果を示したうえで評価を受ける工夫と努力が行われたことを高く評価したい。

総じて、中期目標の達成に向け、順調に実績を積み上げていると評価されるが、流動研究員などの多様な雇用形態の人材を抱えながら業務を遂行していくなかで、人事管理などについて、より細かな配慮が必要となるであろう。また、過年度の業務実績の評価で高い評価を受けてきている「マトリックス構造」についても、本研究所の持続的発展を図る観点からは、常にメリット、デメリットについてのチェックを行っていくことが望まれる。

#### 研究活動

- 前年度に引き続き、「地球温暖化の影響評価に対策効果プロジェクト」等6つの「重点特別研究プロジェクト」、及び「循環型社会形成推進・廃棄物管理に関する調査・研究」等2つの「政策対応型調査・研究」は、年次計画に従い概ね順調に進行している。これらのプロジェクト、調査・研究の平成16年度の成果に対する外部評価の結果は、1課題を除きA（大変優れている）またはB（優れている）が85%以上となっており、全般的に高い評価を受けている。引き続き中期計画の達成に向け、最終年度にあたる今年度の進展を期待する。
- 長期的な視点に立った環境研究の基盤となる研究及び研究所の研究能力の維持向上を図るための調査・研究として「基盤的調査・研究」が所内公募制により実施されており、内容の創造性、先進性が高く評価されるとともに、研究者育成の面でも貢献している。
- 知的研究基盤を整備する組織として「環境研究基盤技術ラボラトリー」及び「地球環境研究センター」があり、いずれも外部評価において高い評価を受けている。平成16年4月から事務局としての活動を開始した「GCP（グローバルカーボンプロジェクト）」をはじめ、国際的な連携が不可欠な温暖化研究分野等において、国際的なネットワーク

が強化されたことは評価できる。

- 上記の調査・研究に加え、企業、他の国立研究所・独立行政法人等との共同研究を進めており、いずれも行政ニーズ、社会ニーズに応えるものとして評価される。また平成16年度においては地方の環境研究機関との共同研究が大幅に増加しているのは、わが国全体の環境研究のレベルアップにつながるものとして評価され、今後とも、国内における環境研究機関のネットワークの中核としてますます重要な役割を果たすことが期待される。
- 研究成果の広報・普及について見ると、誌上発表、口頭発表とも目標達成に向けて、着実に成果を上げつつあり、専門研究者への情報発信は適切に行われている。社会一般への広報活動は、講演会、所内見学、ホームページなど、継続的な取り組みが行われている。今後は、広報、啓発活動についての反応や結果について十分な分析を行い、それを次の活動につなげる努力をすべきである。

#### 環境情報の収集・整理・提供

- 環境情報の収集・整理・提供は、研究と共に国立環境研究所が国民に対して行うもう一つの重要なサービスである。平成14年に本格運用を開始した「環境GIS」は、新たに3種類のデータの提供を開始したことにより中期計画の目標を達成したが、最終年度に向けて、さらなる内容の充実、拡充に努めるべきである。

公開情報の充実、アクセス件数の増加など、前年度に引き続き着実に取り組みがなされているが、今後は、研究者はもとより、国民各層が活用しやすいよう、さらにわかりやすい情報提供に努めることが求められる。

#### 研究所の運営

- 概評にも記したように、国立環境研究所への改組以来とられている専門分野別基盤研究と領域横断・問題指向プロジェクト研究への参加というマトリックス・マネジメントは、

引き続き良く機能しているが、常に、そのメリット、デメリットについて検証することを心がけ、必要に応じ、何らかの不具合ないしその前兆が発見された場合には、過去の経緯にとらわれず、速やかに改善していくことが求められる。

- 運営交付金、競争的資金、業務受託費など研究に直接使われる資金については、重点特別研究プロジェクト、政策対応型調査・研究などに適切に配分されていると思われる。なお、重点的な配分がなされた場合については、その効果等についての十分な検証手続きが伴うべきである。

また、研究所の将来を担う重要な要素である基盤的研究については、中長期的な計画に基づき、人的、予算的な配分を行うことが強く望まれる。

- 業務内容の見直し等による経費の削減の取り組みは、具体的成果を見せており、評価できると考える。

また、外部資金の導入については、平成13年度から順調に増えてきたが、15年度～16年度にかけては、横ばいになっていることについての評価は難しい。しかし、研究所としての主体性を保つためには、研究所の目的に良く合致した外部資金であるか否かの吟味が必要であろう。その意味で、競争的研究資金の獲得額が伸びていることについて高く評価すべきであろう。

- 省エネルギーに関する取り組みについては、大型実験施設の計画的運用、エネルギー管理の細かな対応等に取り組むなど、着実に成果を上げており、さらなる省エネルギーを推進するため、他に先駆けてE S C O事業を導入したことは高く評価してよいであろう。

ただし、廃棄物・リサイクルに関する取り組みについては、廃棄物発生量の減量化についての取り組みが十分とは言えず、CO<sub>2</sub>の排出量削減とともに、目標の達成に向けたさらなる努力が望まれる。

- 効率的な施設の運用を図るためのスペース課金制度は、ユニークな取り組みであり、制度としての評価は高かったが、4年が経過し、問題点を指摘する意見もあり、次期中期計

画に向けて、制度についての検証を実施し、改善を図ることが必要ではなかろうか。

## 結 論

以上を踏まえ、また、以下に記述する事項別評価の結果も勘案し、平成16年度の独立行政法人国立環境研究所の業務については、中期目標の達成に向け十分な成果を上げていると判断し、総合評価はAとする。

## 事項別評価

### ・業務運営の効率化に関する事項

以下に示すとおり、中期目標、中期計画の達成に向け順調に推移していることから総合的に判断し、A評価とする。

#### 1．効率的な組織の編成（評価：A）

新たなニーズにも機動的に対応しうる、フレキシブルな組織の編成を評価するが、次期中期計画を見据え、その効率性を適切に判断できるような基準等について検討することを期待する。

#### 2．人材の効率的な活用（評価：A）

任期付研究員、流動研究員等が着実に増加しており、研究者を確保するための努力は評価できる。

今後は、質の向上を図るとともに、多様な雇用形態の人材間の調和の維持やその後の進路を含めた人事管理体制をどうするかについての検討が望まれる。

#### 3．財務の効率化（評価：A）

経費の削減のための継続的努力や自己収入が年度当初の見込みを上回ったことは評価できる。

#### 4．効率的な施設運用（評価：A）

研究所のスペースの合理的利用を図るための課金制度については、順調に運用がされていると評価するが、制度施行以来4年を経過しており、その機能・影響等についての点検結果を踏まえ、適切な見直しがなされるよう期待する。

なお、報告の記述について、効率的な取り組みの状況がより明確となるような工夫が望まれる。

## 5．業務における環境配慮（評価：A）

大型施設の増加等があるなかで、エネルギー消費量削減に関する継続的な取り組みの結果、中期目標の数値目標の達成が確実となったことは評価する。

また、環境配慮の面から更なる省エネルギーを推進するためのE S C O事業について、他に先駆けて導入し、平成17年度からはより一層の削減が図られる道すじをつけたことも高く評価したい。

なお、廃棄物の減量化、CO<sub>2</sub>の排出量の削減については、更なる努力を期待する。

## 6．業務運営の進行管理（評価：A）

外部評価を反映した業務の進行管理がなされており、適切な運営がされているものと評価される。

## II．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

以下に示すとおり、環境研究に関する業務及び環境情報の収集・整理・提供に関する業務について、全体として適切な業務運営が図られているとともに、良質な情報提供がなされていることから総合的に判断し、A評価とする。

### 1．環境研究に関する業務（評価：A）

我が国の環境研究の中核的機関として、広範な分野の研究を重点研究として適切に集約するとともに、新たな環境問題等への対応を視野に入れた基盤的研究などの実施により、幅広い分野に柔軟に対応していることを評価する。

#### (1) 環境研究の充実（評価：A）

国内の研究機関との連携が推進されるとともに、国際的なネットワークが強化されたことを評価する。

なお、環境問題における社会科学研究がさらに増加することの重要性に鑑み、

当該分野の研究の進展に呼応した対応を期待する。

(2) 重点研究分野 (評価: A)

重点研究分野については、全般的に着実に成果が上がっていると評価する。

(3) 研究の構成 (評価: A)

重点特別研究プロジェクト、政策対応型調査・研究、基盤的調査・研究、知的研究基盤等、バランス良く機能しているものと評価する。

ア. 重点特別研究プロジェクト (評価: A)

外部評価の結果を踏まえ、全体として着実に進展していると評価する。

ただし、分野によって達成度などにバラツキが見られるなど、やや課題も残ると思われるので、最終年度における一層の進展に期待する。

イ. 政策対応型調査・研究 (評価: A)

外部評価結果にも進展が見られ、適切に成果をあげていると評価する。

今後は、政策立案に資するためのシステムの強化が望まれる。

ウ. 基盤的調査・研究 (評価: A)

所内公募制度により研究者のモチベーションを高めており、研究者育成に貢献していると評価する。基盤的研究は、研究所の将来を担う重要な要素であり、中長期視点に立った人的、予算的配分に配慮することを望む。

エ. 知的研究基盤 (評価: A)

地球環境研究センターにおける地球温暖化に関する研究推進体制の強化 (G C P・つくば国際オフィス、G O S A T研究チーム) が図られたことを評価する。

引き続き、知的研究基盤の整備の推進を期待する。

( 4 ) 研究課題の評価・反映 (評価：A)

事前評価、事後評価など評価の仕組みが整い、評価結果が研究活動の活性化に寄与していること評価する。

なお、今後は、成果が出るまでに時間がかかる研究を評価するための指標の検討や、評価に対応するための労力の軽減などについての検討に努めるべきである。

( 5 ) 研究成果の普及、成果の活用促進等 (評価：A)

以下に示すとおり、研究成果の充実に対応して、政策等に反映されるなど、その普及、活用促進等に着実な進展が見られることを評価する。

ただし、成果の普及に関しては、専門家だけでなく、一般国民を対象とした普及方法について引き続き検討、実施することが望まれる。

研究成果の普及 (評価：A)

査読付の論文数が着実に増加しており、研究成果が形となって現れてきたと考えられ評価できるが、今後も引き続き、一般国民への普及のための取り組みの強化を期待する。

研究成果の活用促進 (評価：A)

企業との共同研究の推進を図るなど、順調に進捗していることを評価する。

特許等の知的財産権については、取得数のみではなく環境研究所という性格を踏まえた知的財産保護の検討が行われることを期待する。

研究活動に関する広報、啓発 (評価：A)

施設の公開を夏休み期間中に設定し、見学者の大幅な増加が図られたことなど、新たな取り組みを評価するが、見学者のアンケート結果等の解析など、広報、啓発の反応や結果が明確となるよう努力すべきである。

## 2. 環境情報の収集・整理・提供に関する業務（評価：A）

全体として適切に取り組みがなされているものと評価する。

引き続き提供情報の更新を図る等、情報提供業務のさらなる充実を期待する。

### （1）環境情報提供システム（EICネットホームページ）整備運用業務（評価：A）

環境に関する様々な情報の収集・発信サイトとして順調に機能し、利用件数も大幅に増加しており、システムの整備運用を評価する。

今後は、引き続きコンテンツの充実に努めるとともに、双方向的コミュニケーション体制の充実を図るため、利用者の「書き込み」に対する内容の分析についての重要性を認識した対応を期待する。

### （2）環境国勢データ地理情報システム(環境GIS)整備運用業務（評価：A）

目標を達成したことを評価するが、今後は、他のデータベース等とのリンクあるいは他機関のデータの取り込みなど、更なる展開を要望する。

### （3）研究情報の提供業務（評価：A）

公開情報の充実、アクセス件数の増加など、継続的な取り組みを評価する。

今後は、さらにわかりやすい情報の発信に心がけるよう期待する。

## III. その他業務運営に関する重要事項

以下に示すとおり、着実な設備・施設の整備及び弾力的な人員配置の実施などがなされていることから総合的に判断し、A評価とする。

### （1）施設・設備に関する計画（評価：A）

中期計画に基づき、順調に拡充、改善していると評価する。

今後とも、安全対策については、充分配慮されることを望む。

( 2 ) 人事に関する計画 ( 評価 : A )

若手研究者の活用など評価できる。

任期付研究員について、優秀な人材の確保のためにも、任期終了後の処遇について考えた対応に常に留意する必要がある。